

卒業時アンケートの立ち上げと、 学生行事と連動した回答率向上施策についての事例報告

高瀬雄一郎、玉造美恵、石井雅章、吉野知義、寺澤岳生、相良亜希（神田外語大学）

1. 本発表の目的

神田外語大学（以下本学）では、2018年度に卒業時アンケート（当該年度に卒業する学生を対象としたアンケート）を初めて実施した。本発表は、その卒業時アンケートが実際に行われるまでのプロセスと、学生行事と連動した回答促進施策・その成果について報告を行う。

2. 立ち上げの経緯と調査内容の考え方

2-1. 実施決定に至った経緯

本学は、一般社団法人 IR コンソーシアム（以下 IR コンソーシアム）に加盟しており、加盟校共通の在学生アンケートを 2016 年度より実施している（一部、本学独自の質問も加える形で実施）。加えて 2018 年度より、IR コンソーシアムの方針もあり、既卒生を対象としたアンケートも実施することとなった。そのことから、卒業時点にもアンケートを実施することで、大学への満足度や能力変化について時系列での分析が可能となると考え、本調査の実施を決定した。

2-2. 調査の目的と調査内容について

本調査の実施にあたり、以下の4点を目的として設定した。

- ・卒業する学生の成長実感や満足度を調査し学内に報告する。
- ・大学への満足度や能力の変化について、在学中、卒業後のアンケート結果と紐づけた分析を行う。
- ・ディプロマポリシーに対する学生の到達度を測定する。
- ・卒業する学生が自身の学生生活・学習成果を振り返る機会を創出する。

これらの目的から、本アンケートの質問内容については把握したい事項についての質問を列挙するだけでなく、「在学中・卒業後のアンケートとの連動」という点も考慮して設計された。

また、「ディプロマポリシーに対する達成度合いの測定」という視点からの設計も検討された。しかし、ポリシーの文面をアンケート項目に落とし込めるレベルに要素分解することが難しかったことに加え、項目化するのであれば、全学的な決定プロセスを経なければいけないのではないかという懸念もあり、最終的にはこの視点を調査項目の検討に持ち込むことは見送られた。

表1) 卒業時アンケートの質問項目

No.	大項目	小項目	選択肢	回答方法	在学中アンケートとの連動	卒業生アンケートとの連動
1	大学生生活の満足度	授業	とても満足 満足	単一選択		○
2		授業以外の学生生活	どちらでもない 不満			○
3		学内施設	とても不満			
4	卒業後の進路		日本国内で国内をターゲットにした日本企業への就職 日本国内でグローバルに展開する日本企業への就職 日本国内で外資系企業に就職 日本国内で公務員(教員を除く)として就職 日本国内で小学校教員として就職 日本国内で中、高教員として就職 国内または海外で日本語教員として就職 海外で就職 大学院進学 語学留学をする 今のところまだ決まっていない その他	単一選択	○	
5	卒業後の進路は希望通りか		希望どおり ある程度希望通り あまり希望通りではない まったく希望通りではない	単一選択		
6	大学で身についた能力	英語の運用能力		単一選択	○	○
		専攻地域言語の運用能力			○	○
		一般的な教養			○	○
		専攻言語圏に関する知識			○	○
		日本の文化に対する知識				
		主体的に考え、取り組む能力				
		分析力や問題解決能力			○	○
		批判的に考える能力			○	○
		論理的思考力				
		リーダーシップの能力	身についた やや身についた どちらともいえない あまり身につかなかった 身につかなかった		○	○
		人間関係を構築する能力			○	○
		他の人と協力して物事を遂行する能力			○	○
		異文化の人々と協力する能力			○	○
		文章表現の能力			○	○
		コミュニケーションの能力			○	○
プレゼンテーションの能力		○	○			
コンピュータの操作能力		○	○			
時間を効果的に利用する能力		○	○			
実行力						
7	学習への熱心度		かなり勉強した 勉強した あまり勉強しなかった 勉強しなかった	単一選択		
8	大学4年間で力を入れたこと		大学の勉強(授業とその予習・復習・課題を含む) 課外活動(部活動・クラブサークル) 資格・検定等の取得およびスコアアップ 留学 海外経験(留学を除く) ボランティア活動 留学生との交流 インターンシップ活動 就職活動 アルバイト 友人との交流 その他	複数選択		
9	総合満足度		とても満足 満足 どちらでもない 不満 とても不満	単一選択	○	
10	知人への推奨度		勧めたい やや勧めたい あまり勧めたくない 勧めたくない	単一選択		
11	大学への意見・要望			自由記述		

3.調査概要と回答率

本調査は以下の通り実施され、その回答率は26.1%であった。

表2) 卒業時アンケートの実施概要

対象者	2018年度卒業生
調査期間	2019年3月14日（木）～4月1日（月）
調査手法	Web アンケート
設問数	11問
想定所要時間	約5分
対象学生数	779人
回答者数	203人
回答率	26.1%
(参考) 当該年度実施の 在学生アンケートの回答率	21.5% (対象学生数 4,008人 / 回答者数 863人)

4.回答促進施策について

本アンケートの周知は、対象学生へのメール配信によって行われた。また、それに加えて、2019年3月16日（土）に行われた学生行事「卒業パーティー」と連動した回答促進も行われた。

4-1.メールによる回答促進

調査開始日にあたる3月14日（木）に、全対象者に回答依頼のメールを送信した。その後、3月16日（土）の卒業式終了から卒業パーティー開始までの時間帯に、未回答者に対して再度メール配信を行った。

4-2.学生行事と連動した回答促進施策検討の経緯とその内容

本アンケートの実施を決めた当初より、回答を促す周知をメールで行うことは決まっていた。しかし、卒業間際というタイミングから、大学からのメールをあまり確認しなくなっている学生も多くいることが想定されたため、それ以外の施策、特に学生に対面でアプローチできるものを検討することとなった。

検討においては、ほとんどの卒業生が参加する卒業式の最中や、式終了後に必要書類等を渡す窓口（式に参加した全学生が訪れる）での施策案も挙げたが、全学行事である卒業式の円滑な運営が損なわれるリスクを考慮し見送った。そして、次に多くの卒業生が集まる卒業パーティーにて施策を行うこととした。

卒業パーティーで施策を行うことを決めた背景としては、本アンケートを担当する本学IR推進室のメンバーの中に、卒業パーティーの担当部署である学生課と兼務の者がおり、他部署に大きな負担をかけずに実施することができたということも挙げられる。

4-3.卒業パーティーについて

卒業パーティーは、本学の卒業式実施後、卒業生と教職員を対象に毎年行われている。学生自治組織「卒業パーティー委員会」の主催により行われており、学生課がその顧問となっている。パーティーへの参加は任意（会費制）で、2018年度の参加学生数は375人（卒業生の48.1%）であった。

会の中では、来賓からの祝辞、学生サークルの後輩によるパフォーマンスなどに加え、参加した卒業生を対象として景品が当たる抽選会も行われる。

IR推進室での検討の結果、今回はその抽選会においてアンケート回答者の中から当選する景品を用意し、当日はパーティーの開会前からアナウンス等で周知することで回答促進を行うこととした。

4-4.学生の協力

その後、「卒業パーティー委員会」の学生と打ち合わせを行い、施策は了承された。そして、以下の2点について学生からの協力を得られることとなった。

①景品の提案

過去の抽選会で人気があり、かつ今回は景品として出す予定がないものについて、学生側でリストアップが行われ提案があった。IR推進室はその中から予算もふまえて検討を行い、学生からはなるべく当選人数が多くなるようにしてほしいとの要望もあったことから、「TOHO シネマズギフトカード 3,000円分」（全国のTOHO シネマズで好きな映画が見られる金券）を10本出すこととした。

②パーティー当日の周知

パーティーの開場から開会までの間、会場の大型スクリーンにアンケートサイトとリンクしたQRコードを表示。抽選会において「アンケート回答者賞」がある旨複数回アナウンスを入れ、パーティー中も、回答締め切り時間の直前にアナウンスを入れてもらうこととなった。

表3) 卒業パーティーのタイムテーブル（抽選会まで）とアンケートの周知

時間	全体の流れ（網掛け太字は回答促進）	職員の動き
14:30	開場	
	会場内スクリーンへのQRコード表示 回答を促すアナウンス	会場入り
15:45	開会／来賓等挨拶	
16:05～16:20	学生サークルによるパフォーマンス①②	
	アンケートは16:30に締め切る旨アナウンス	
16:21～16:28	学生サークルによるパフォーマンス③	
	最終アナウンス→回答締め切り	抽選
16:30～17:00	抽選会（アンケート回答者賞は最後）	

4-5.パーティー当日の様子

当日は、IR推進室の職員2名がノートPCを持参して会場で待機。回答締め切り後、抽選を行うことができるwebサイトを活用して速やかに抽選を行った。アンケートの最後に、卒業パーティーに参加予定かどうかを聞く質問を入れていたため、抽選は参加予定となっていた回答者の中から行った。アンケートの回答では参加予定としていても、当日何らかの事情で来ていない学生もいる可能性を考慮し、当選者数10名に対して抽選では15名抽出し、司会の学生に当選者リストを渡した。

5.卒業パーティーと連動した回答促進施策の効果

本アンケート回答期間中の回答者数の推移を以下に示す。

図1) アンケート回答者数の日別推移

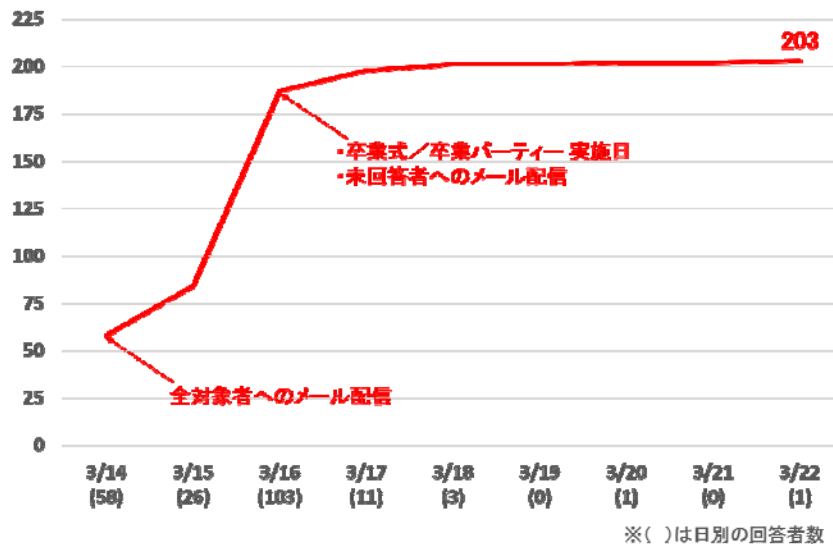
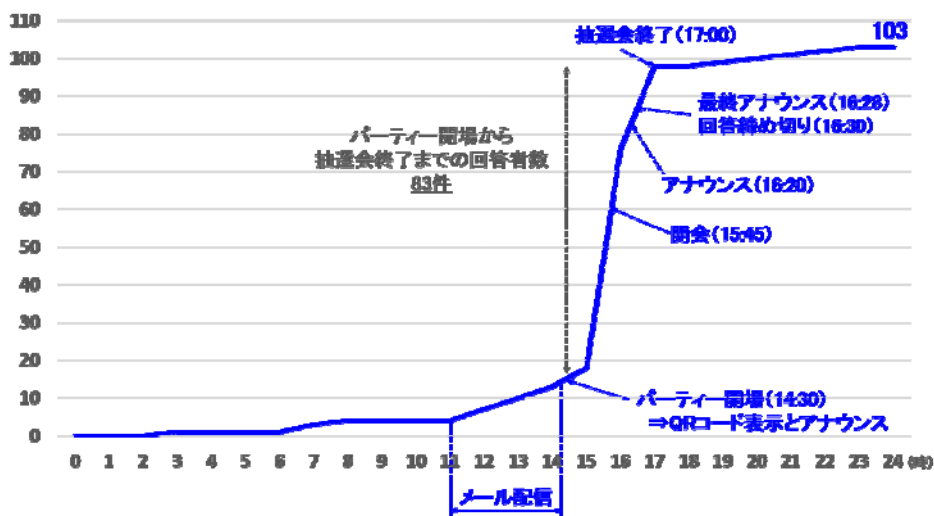
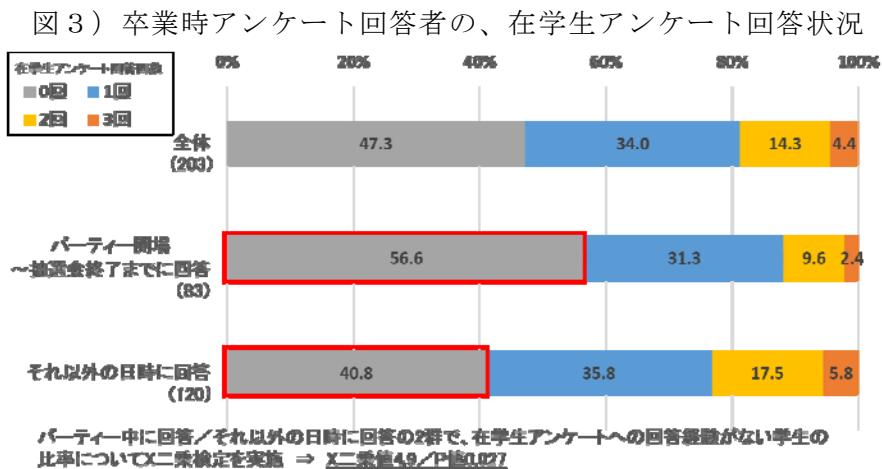


図2) 3月16日の回答者の時間別推移



回答総数 203 件のうち、約半数にあたる 103 件が、卒業式・卒業パーティーが実施された 3 月 16 日の回答であった。その中の約 8 割、全体の約 4 割にあたる 83 件が、卒業パーティーの開場から抽選会終了まで（以下パーティー中）に回答されたものであったことから、この施策は大きな効果があったと言える。

また今回の施策は、これまでこのような学生を対象としたアンケートに回答したことがない学生の参加を得られたという点においても効果が見られた。以下の図は、今回のアンケートの回答者が、在学中に 3 度（2016 年より年 1 回ずつ）行われている在学アンケートにどれぐらい回答していたかを示したものである。



パーティー中に回答を行った学生群には、それ以外の学生群に比べて在学アンケート回答経験がない者が多く含まれていることが分かった (X 二乗値 4.9/P 値 0.027)。在学アンケートにおいては、回答促進はメールや学生ポータルサイトといったオンラインの施策と学内掲示物を中心に行われていた。今回の卒業パーティーと連動した回答促進は、そういった施策では獲得しきれなかった学生に対して特に有効に作用したと考えられる。

6. 在学アンケートとの紐づけが可能なデータ数

2-2 でも述べた通り、本アンケートは「在学中・卒業後のアンケートとの連動」という点も目的として設定していた。そこで、今回の回答者のうち、各年度の在学アンケートにも回答していた人数を調べたところ、以下の通りであった。

表 4) 卒業時アンケート回答者 203 名のうちの、在学アンケート回答者数

2016 年度	2017 年度	2018 年度	いずれか回答
31 (15.3%)	74 (36.5%)	49 (24.1%)	107 (52.7%)

卒業時アンケートと在学アンケート両方に回答している学生の数を増やし、より精度の高い分析を行っていくためには、それぞれのアンケートでの回答率向上が必要となる。今回の卒業時アンケートにおいて、対面での周知により従来の施策では回答に至っていなかった学生を獲得できることが分かったことを活かし、在学アンケートにおいてもそういった視点での回答促進が行われることは、その一助となると考えられる。